

# 古典『無名抄』「おもて歌のこと」

国語科 植田 敦子

## I 授業の目的

生徒に古文のおもしろさを教えるためには、授業者の力量が問われることはもちろんであるが、内容におもしろい、興味深いと思える作品を読ませることが肝要だと常々感じている。今回取り扱った『無名抄』「おもて歌のこと」は、『平家物語』「忠度の都落ち」で登場した藤原俊成が登場し、当時同じく歌壇で名を馳せていた俊恵との和歌観の違いが窺え、興味深い内容である。本文の読解、文法事項の把握という基本的な学習活動に加え、当時の歌人達の歌に対する考え方や、「おもて歌」に対するこだわりなどの人間味あふれる部分に触れ、古典世界への関心を高めてくれればと思い、この教材を選んだ。

## II 授業の流れ

1時間目は、主に本文の内容理解に重点を置いた。作品、作者について簡単に確認した後、全文を音読し、どんな内容か確認させた。授業者が思っていた以上に、生徒にとってはこの文章の内容が理解しづらく、人物関係や、誰が何をしたのか、ということではつまづいていたようである。近くの生徒同士で話し合わせ、段落に分けて内容を整理し、その後本文の口語訳をしながら、文法や語句説明を適宜加えていった。特に、初出の「給ふ」の謙譲用法は尊敬用法と対比させ、丁寧に説明した。また、生徒からは、敬語の敬意の方向に関する質問がいくつか出て、その中で「内々に申ししは」の「申す」の敬意の方向について、授業者が即答できずに、生徒同士が自身の見解を述べ合うという場面があった。結局は、これまで謙譲語として認識していた「申す」の丁寧用法であったのだが、はからずも生徒が自ら考え、主体的に授業に関わる場面が出来たのは、授業者にとっても興味深かった。

2時間目は、まず三首の和歌の解釈を行い、その後は生徒に自分の考え、意見を発表させる時間とした。和歌の解釈では、資料を配り、「夕されば」の歌が古典世界を踏まえたものであること、「面影に」の歌の「峰の白雲」の解釈に二通りあること、「み吉野の」の歌のイメージなどを確認した。俊恵の「み吉野の」の歌は、純粋な自然詠であるはずだが、生徒は、直前にある俊恵自身の「景気を言ひながして、ただ空に身にしみけんかしと思はせたるこそ、心にくくも優にも侍れ」という評に引きずられて、一生懸命心情を読み取ろうとしており、改めて生徒の「素直な」読みというものに気付かされた。

その後、当時重んじられていた「幽玄」という美的理念について説明し、俊成と俊恵は同じ「幽玄」でも目指す方向が違った、という内容などを説明した。最後に、三首の歌のうちでどれが一番好きか挙手をさせ、理由を説明させた。思った以上に積極的に参加し、どの歌にも手が上がったのは意外であった。(授業者は地味な「み吉野の」の歌を選ぶものはいないかと思っていたが、3名ほどが挙手し、好きな理由を述べた。)

### III 研究協議

13名の先生がご参加くださり、本時の授業についてや、普段の古文の指導について様々な意見が交わされた。中でも、「生徒が活発で、主体的に考え、授業に参加しているのがすばらしい」という意見が多く寄せられ、「どうしたらそのように持っていけるのか」という質問も出た。これに関しては、中学校までの教育や、本校での、発表を取り入れたり、自分の意見を述べさせたりすることを普段から行っているという背景があることをご説明した。

また、「古文の授業というと、生徒も文法事項の理解や口語訳をするのに必死になり、それ以上の作品の深い鑑賞まで至らないが、今日の授業では作品の深い鑑賞がなされていて、すばらしかった」とのお褒めの言葉もいただいた。

その反面、和歌の解釈での生徒の意見に対し、授業での結論があいまいになった、当時の歌を作る場の説明や新古今時代の歌風の説明をした方がよかった、「俊成」の読みを授業者は「しゅんぜい」と言っているが、教科書には「としなり」としか書かれておらず生徒の中で混乱があった、生徒に口語訳の宿題を出している(資料3)のならば、もっと生徒に当てるのがよいのでは、など具体的なアドバイスもいただいた。

次に、古文の文法指導について、どの段階で何を教えるのかという資料(資料2)を付していたので、それを参照しながら、ご参加くださった先生方がどのようにご指導なさっているのかを伺うことができた。授業者自身、現在の少ない授業時数(※1)の中で、古典文法をどうやったら効率よく教えられるかを課題として考えており、本公開研の授業案内文にもそのことを記していた。公立高校の先生は、私が示した資料とほぼ同じ流れで教えているとおっしゃったが、中高一貫校の先生からは中学の段階で助動詞まで終えているというお話を伺い、大変魅力的に思えた。中学段階で、文法事項の下地がある程度できていれば、高校でもう少し作品の読解や鑑賞に時間をかけられるのではと思うが、その先生のご説明によると、結局忘れていたりするので再びやらなければいけないとか、文法を先に固めることにより、古文に苦手意識を持つ生徒が増えるというデメリットもあるということであった。また、文法の指導が教材の配列等でもっとシスマティックになればいいというご意見を後日お手紙でいただいたりもした。

## IV 反省

授業や研究協議を通して、改めて普段の授業にも通じる様々な課題が見えてきた。授業者は当然と  
思っている生徒にとってみればわかりにくいことに意識的になること、結論をあいまいにせず、その  
授業での結論をきちんと示してあげること、予習として課したこと（今回は特に口語訳）をうまく授業  
で生かすこと等、基本的なことも反省させられた。その反面、自分が当然であると思っていた生徒の授  
業参加態度や理解力が、実は評価できるものであることも確認できた。

研究授業により、改めて生徒の実態を捉え直すことができ、生徒が持っている良い素質を生かし、さ  
らに伸ばしていく授業の必要性を痛感した。そのためには授業者自身のスキルアップが急務であること  
は言うまでもない。また、授業者が説明しすぎるのではなく、生徒が疑問を抱き、自らそのことを解決  
しようとする授業展開も有効ではないかと気付かされた。今後の授業に役立てていきたい。

- ※1 当該学年は、1年次 国語総合 古典 週2時間  
2年次 古典 週3時間 うち古文2時間  
の履修である。

古典『無名抄』『おもて歌のこと』資料編

※当日配布した資料から抜粋し、一部手を加えた。

【資料1】指導計画、その他

【対象】二年菊組（古典必修三単位 内古文二単位） 約二〇名

【指導目標】

- ㊦ 俊成の歌二首の内容を理解させた上で、俊恵の評についての生徒自身の見解を持たせる。
- ② 俊恵のおもて歌を解釈し、俊恵の和歌観を考えさせる。
- ㊦ 俊成と俊恵の論争に対する自分の意見や、自分の好きな歌とその理由などを発表させる。
- ④ 口語訳、文法事項について確認をし、謙譲の補助動詞「給ふ」について理解させる。
- ⑤ 歌人たちの「おもて歌」に対するこだわりを理解させる。

【本日の指導計画（2時間）】

	学習活動	指導上の留意点
5分	1 作品、作者について確認。 2 「深草の里」全文を音読	1 方本記の作者であること、歌論というジャンルであることを説明。 2 正しく読めているか確認。
45分	1 どんな内容か確認。 話し合い 3分 発表・確認 5分 2 歌以外の文章の口語訳をする。 語句、文法事項も確認。	1 指名により発表させる。登場人物や三首が誰のどんな歌かを理解させる。 2 課題プリント活用 謙譲の補助動詞「給ふ」については初出なので、尊敬の補助動詞「給ふ」と違いがわかるように説明する。
35分	3 俊成の二つの和歌を解釈する。 4 俊恵の評価を確認し、俊恵がどんな歌をよしとしていたかを考える。 5 俊恵のおもて歌を解釈する。 6 ① 俊恵がどんな歌をよしとしていたかを再確認しつつ、歌を検討する。 ② 俊恵の歌のどのような点が優れているか考えさせる。	3 解釈をさせる。 4 ① 「身にしみて」の語句がなぜ良くなかったかを理解させる。 ② 俊恵の評価に納得できるか聞いてみる。 ③ 俊成の歌は、古典（『伊勢物語』百二十三段）を題材にした歌であることを紹介する。 「身にしみて」は待つ女の心情を表現したものの、という解釈を紹介する。 6 ① 「景氣を言ひながして」の言葉通り、主観的な言葉はなく、景色を詠み、余情を感じさせる歌であることを理解させる。 ② 山と麓、雪としぐれを対比させた、雄大な景色を詠んでいて、水墨画の世界を彷彿とさせる歌であることを理解させる。 7 どの歌が好きか手を挙げさせ、どんなところが好きなのか発表させる。

まとめ 15分	<p>1 この論争に対する自分の見解を発表する。</p> <p>2 三首の中で自分が好きな歌とその理由について発表する。</p> <p>3 おもて歌に対する歌人の思いを、『今物語』等によって確認する。</p>
------------	--

【評価】 次の観点で評価する。

- 1 授業中の話し合い等に積極的に参加できたか。
- 2 それぞれの歌について理解し、自分なりの見解が持てたか。
- 3 当時の一流の歌人たちでも秀歌に対する考えが違っていたり、『おもて歌』に対する執着があったりするという、当時の歌人や歌壇のあり方に興味・関心が持てたか。

※本来ならば、定期考査などでの評価もするところであるが、今回はこのクラスのみ、しかも一部の生徒を対象にした授業であるので、定期考査での評価は行わない。

【これまでの学習状況】

《これまで学習した教材》

一年次（週二時間五〇分×二 古文・漢文併せて）

※一年時は別の教員が担当していた。 使用教科書 東京書籍『国語総合古典編』

宇治拾遺物語「檢非違使忠明、いさかひのこと」「鳥羽僧正、絵をもつて諷すること」

古今著聞集「大江山小式部内侍の話」（教科書外の教材）

徒然草「奥山に、猫またといふものありて」「ある人、弓射ることを習ふに」「花は盛りに」

土佐日記「馬のはなむけ」（冒頭の一部分のみ）

竹取物語「天の羽衣」

伊勢物語「芥川」「東下り」「筒井筒」

古今和歌集 一部

文法事項 動詞、形容詞、形容動詞、助動詞（まほし、たし、ごとし以外）

助詞（係助詞「は」「を」、終助詞「なむ」程度）、敬語（種類の確認）

二年次 使用教科書 東京書籍『古典 古文編』 ※印は教科書外の教材

	学習教材 ※印は教科書外の教材	
4月	※宇治拾遺物語「晴明、蔵人少将封ずる事」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最高敬語・絶対敬語</li> <li>・敬意の方向</li> <li>・敬語の整理①</li> <li>・助詞の種類</li> <li>助詞の整理②</li> </ul>
5月	大鏡「花山天皇の出家」「道長、伊周の鷹射」	
6月	文法 敬語の整理、これまで本文に出てきた敬語の整理	
	文法 助詞の種類、これまで本文に出てきた助詞の整理	
	枕草子「中納言参り給ひて」	
7月	更級日記「門出」	

9月	更級日記「物語」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語の整理②</li> <li>・助詞の整理②</li> </ul>
10月	平家物語「忠度の都落」	
11月	※平家物語「木曾の最期」 建礼門院右京大夫集「この世のはかに」	
(今後の予定)		
11月	今物語「鳩吹く秋」	
12月	※新古今和歌集 三夕の歌 枕草子「宮に初めて参りたること」	
1月	源氏物語「光源氏の誕生」「若紫」	
以降	蘭学事始「フルベツヘンド」 文法事項	

### 《二年次 教材配列の意図と実際》

二年次の最初は、生徒が楽しめ、興味を持てるような教材を扱い、古文学習への意欲を高めたいという思いがあり、晴明に関する説話や『大鏡』『花山天皇の出家』を扱った。しかし、実際は、『花山天皇の出家』などは、敬語が頻出するため、かなり時間がかかった。もう少し遅い時期にやれば良かったと反省している。

『更級日記』『門出』『物語』は教育実習生の授業である。一学期以降は、平家関連の話で、『平家物語』『忠度の都落』から『建礼門院右京大夫集』までを配列した。

なお、週に一回、百人一首テストを三首ずつ実施している。答え合わせ、解説も含めて10分、長い時には15分程度を要する。

### 【資料2】文法事項の進捗

#### 一年次

一学期 動詞の活用、形容詞、形容動詞

助動詞「けり」「たり」「つ」「ぬ」他

助詞 係り結び、已然形＋「ば」

二学期以降

一年次で助動詞はほぼ終了（「まほし」「たし」「ごとし」は未習）

敬語（尊敬語・謙讓語・丁寧語の種類の説明）

#### 二年次

一学期 敬語（尊敬語・謙讓語）

敬意の方向、二重敬語

助詞の種類確認、助詞の整理

二学期以降 敬語・助詞を重点的に指導する予定であったが、十一月現在、六月にまとまってやって以来、文章に出てきたものやっけていくに留まっている。今後プリント等で体系的に、また簡潔に学習する予定。

〔資料3〕予習プリント

二年 古文 予習課題 「おもて歌」(『無名抄』教科書 151～152 P)

一 本文を音読する。

二 わからない意味の語をチェックし、調べる。

最低限次の語は調べてくること(品詞名、活用のあるものについては、活用の種類・活用形も明らかにすること。)

151 P 1 まうで 3 まさしく 3 承らん 4 夕されば 6 あまねく

8 いかにか 10 内々 11 いみじう 12 心にくく 12 憂にも

152 P 1 むげに 4 語り給へ

三 次の助動詞・助詞を文法的に明らかにせよ。(助動詞は意味・基本形、活用形。助詞は種類と用法)。

例 ・帰りぬれば (完了の助動詞「ぬ」の已然形)

・御烏帽子ながら (接続助詞・継続)

151 P 3 それをば用ゐ侍るべからず

4 鶉鳴くなり 7 幾重越え来ぬ

9 言ひ比ぶべからず 12 思はせたるこそ、 13 歌の詮とすべきふし

152 P 2 うちしぐれつつ

四 次の文節を品詞分解し、文法的に説明した上で口語訳しなさい。

151 P 8 よそにはさもや定め侍るらむ

12 身にしみけむかし

152 P 4 かくこそ言ひしか

五 本文の中には、今回初めて出てくる謙讓の補助動詞(古典文法テキスト 120 P)が使われている。活用、意味に留意し、謙讓の補助動詞を抜き出せ。

十 a 可能な範囲で口語訳せよ。特に三首の歌の内容について考えておくとよい。